

2010年8月10日  
大日本スクリーン製造株式会社

## 2011年3月期第1四半期決算説明会

・第1四半期の実績（売上：514億円、営業利益46億円）と第2四半期の予想（売上：626億円、営業利益39億円）を比較すると、売上高は大きく増加しているが営業利益は逆に減少している。どのような理由か？

第1四半期は収益性の高い売上が集中したことや、前年度に在庫評価損の引き当てを行った在庫の販売で、評価損の戻入益が発生したことなど一時的な要因がありました。

第2四半期は、収益性の低い案件や、受注増に伴う固定費の増加があり、営業利益率は低下する予想となっております。

・財務体質の強化に対して基本的な考え方を教えて欲しい

当面は、現在753億円ある有利子負債の削減に注力し、併せて、純資産の増加により自己資本比率の向上を図ってまいります。有利子負債の返済には、キャッシュフローの捻出に努めることを基本とし、現在保有する現金・預金（395億円）の一部も充当してまいります。純資産の増加、自己資本比率の向上のためには、利益の積み上げがベースとなりますので、引き続き業績の向上に努めてまいります。なお、自己資本比率の向上や運転資金確保のためのエクイティファイナンスにつきましては、本年度中に実行することは考えておりません。

・半導体機器事業に関して、受注の見通しとSOKUDOの状況を教えて欲しい

第2四半期の受注額は第1四半期並みの水準と現時点では予想しております。最終製品（タブレットPCやスマートフォン）の需要増加を背景に半導体メーカーの設備投資が活発に推移しており、下期につきましても好調に推移するものと予想しております。SOKUDOの業績に関しましては、順調に推移しており、今期は前期に比べ、大幅な売上の増加を予想しております。